

大学図書館にできること

甲南大学 赤瀬 美穂

1. 大学図書館の機能・役割

- ★大学図書館は、大学本来の目的である高等教育と学術研究活動を支える重要な学術情報基盤であり、大学にとって必要不可欠な機能を持つ大学の中核を成す施設。
- ★大学において行われる教育、研究に関わる学術情報の収集、蓄積、組織化が行われ、蓄積された学術情報は、検索可能な形で公開されることにより、社会の共有財産となる。
- ★教育の側面から見ると、大学の教育はそもそも教室における講義と、その前後における学生自らの学習をあわせて成り立つものであり、学生が図書資料を活用しながら自ら学習する場として、大学図書館の役割は極めて重要である。
- ★大学図書館は、今日、電子ジャーナルに代表される電子情報とインターネットの普及により、多様化し増大する各種情報を利用者である学生、教職員に効果的、効率的に提供し、また必要とされる情報関連のサービスを組織として行うことが重要。
「学術情報基盤の今後の在り方について（報告）」「Ⅱ. 学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について」科学技術・学術審議会 平成 18 年 3 月。

2. 大学図書館の現実的な課題

(1) ひと（図書館職員）

①人員削減

②業務の外注・委託化

(2) もの（資料・情報資源）

①書庫の狭隘化

②資料の電子化

- ・電子資料の導入
- ・機関リポジトリ
- ・自館の貴重資料等の電子化

(3) かね (利用可能な財源)

① 予算削減

② 洋雑誌の価格高騰

3. 大学あるいは大学図書館における教育とは、学習とは？

(1) 学生が主体的に参加する授業

(2) 「場」としての図書館

4. 大学図書館にできること～情報リテラシー教育 (図書館利用教育) について

(1) 情報リテラシー教育 (図書館利用教育) とは

① 定義

・アメリカ図書館協会の定義 (1989 年)

「情報の必要性を認識し、情報を入手・評価し、効果的に利用する能力」。

・『図書館利用教育ガイドライン 総合版』の定義 (日本図書館協会 1999 年)

「図書館利用教育とは、すべての利用者が自立して図書館を含む情報環境を効果的・効率的に活用できるようにするために、体系的・組織的に行われる教育である。」

* 「自立した利用者」とは？

② 情報リテラシー教育 (図書館利用教育) の必要性

・資料や情報を取り巻く環境の変化

情報源や情報流通経路が多様化し、情報通信技術が発達した情報社会

人々の学習意欲や学習の動機の多様化

・大学における課題解決型の授業や学習

③ 情報リテラシーを身につけた学生はどんなことができるか

基準 1 情報リテラシーを身につけた学生は、必要な情報の性質と範囲を決定する。

基準 2 情報リテラシーを身につけた学生は、必要な情報に効果的、効率的にアクセスする。

基準 3 情報リテラシーを身につけた学生は、情報と情報源を批判的に評価し、選択した情報を自分の知識基盤と価値体系に組み入れる。

基準 4 情報リテラシーを身につけた学生は、個人としてもグループの一員としても、特定の目的を達成するために、情報を効果的に利用する。

基準 5 情報リテラシーを身につけた学生は、情報利用をめぐる経済的、法律的、

社会的な多くの問題を理解し、倫理的、合法的に情報にアクセスし、利用する。

*野末俊比古「米国における利用者教育の方向—大学・学校図書館の基準を中心に—」『カレントアウェアネス』No. 268 2001. 12. 20 より、米国大学・研究図書館協会（ACRL）が2000年に策定した『高等教育のための情報リテラシー能力基準』を抜粋。

（2）目標と方法

①目標

・『図書館利用教育ガイドライン 大学図書館版』の場合の目標は、5段階。

領域1：印象づけ

領域2：サービス案内

領域3：情報探索法指導

領域4：情報整理法指導

領域5：情報表現法指導

②方法

（3）情報リテラシー教育（図書館利用教育）の展開

①情報リテラシー教育（図書館利用教育）の位置づけ

- ・図書館の主要なサービスとして位置づける ⇒ 指導サービス
- ・図書館員の専門性が見える形で表わされたサービス
- ・図書館利用案内・資料の案内から、情報の探し方・使い方と情報活用能力の育成へ展開
- ・文献や情報の探索・収集方法の指導に加えて、整理・分析・表現・発信方法まで。

②情報リテラシー教育（図書館利用教育）プログラムの充実

③教員との連携の重要性

④図書館員にもとめられるもの

5. おわりに

- ・「第17回図書館利用教育実践セミナー（in Kyoto）」のご案内